

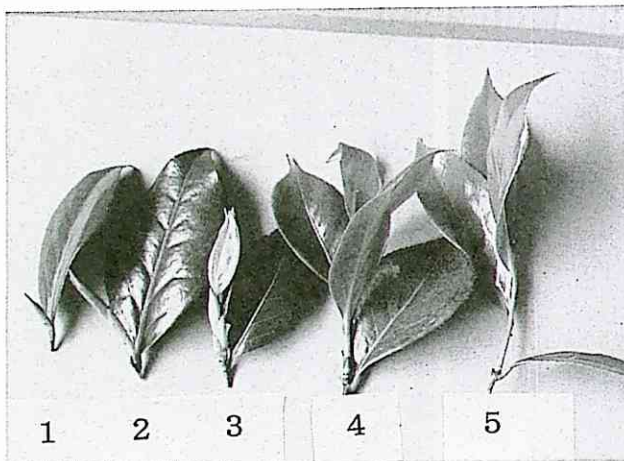
雪国の植物 ユキツバキ 30

## ユキバタツバキの萌芽(展葉)

石 沢 進

春先ユキツバキはヤブツバキに比べて早い時期に萌芽する。それはユキツバキの方が、ヤブツバキに比べて、気温の低い条件で萌芽することによる。ユキツバキとヤブツバキの中間型のツバキをユキバタツバキと区別している。新潟県ではユキツバキとヤブツバキの分布の接点にしばしばユキバタツバキが分布している。新津丘陵のお茶山にもユキバタツバキが分布しているので、そこでのツバキの萌芽(展葉)の状況を調べてみた。

ユキツバキとヤブツバキを花の咲いていない時期に区別するには、葉柄の毛耳の有無を調べ、有毛であればユキツバキ、無毛であればヤブツバキと判断する。ユキバタツバ



展 葉 段 階

キの生育地では、葉柄の毛耳が無毛のものから有毛のものまであり、その本数も様々である。ツバキの展葉の状態を1から5段階に区別し(写真参照)、展葉開始前の芽を1とし、展葉の終了した芽を5として、間の状態を2、3、4と展葉の段階に応じて区分した。そこで毛の本数の程度と展葉の関係を2005年5月9日に調べ、その結果は次表に示す。

ユキバタツバキの展葉段階と葉柄の毛耳の関係

毛耳の程度 (本数)	展 葉 段 階					合 計
	1	2	3	4	5	
無 毛	1	1	2			4
1 - 5		5	1			6
6 - 10		4	2	2		8
11 - 20			6	1		7
20 以上			6	4		10
合 計	1	10	17	7		35

一カ所で一日だけ、また個体数が35と少ないことから、確実な結果をみちびくことができないが、新津丘陵お茶山の集団では、5月上旬では、展葉段階 3程度の個体が多く、展葉の遅い個体にヤブツバキ系のもの、展葉の早い個体にユキツバキ系のものがそれぞれ若干みられる。ユキツバキ系の方がやや早く展葉する傾向を示している。

## 指定管理者制度の在り方

文化施設、特に継続的に資料収集して将来に備える文化施設について、管理者を数年で変えるような運営では、一貫性を欠くことになるし、多額の費用がかかる等の理由で貴重な基礎的資料の蓄積を失う恐れがある。つまり、採算性だけを追求する立場から、文化の基盤を支える基礎資料は、経費だけがかかる不要な存在として廃棄してしまう可能性が高い。そのような事態になっては、取り返しがつかない。現時点では無駄と思われる資料を大切に保存しておき、時間が経過した後で、過去の状況・実態をたどる遺産となるはずである。自然科学の分野でも過去の資料の蓄積なしで、これから起こるであろう自然現象の解析はできない。少なくとも公的機関、少なくとも各県単位で情報の収集と基礎資料の確保を行っておくことが必要であろう。特に、新潟県では、早急に収集し、保管が要望される。

次頁にはこの管理者制度の在り方を解説している資料を記載したので、多くの方々の理解をお願いしたい。

(石沢 進)